



「課題研究における英語指導」を実施しました

6月8日(金)、15日(金)、29日(金)、7月12日(木)に、理数科3年生を対象に、佐賀大学 福井寿雄先生、佐賀大学大学院の留学生の皆さん、本校ALTによる、「課題研究における英語指導」を行いました。

生徒達は、「英語による課題研究発表会」に向けて、2年次の研究内容をもとに英語ポスターを作成し、研究の内容を留学生の方々やALTに英語で説明しました。留学生の方々やALTから、科学論文の英語表現についてアドバイスをいただきました。



「科学へのとびら」に参加しました

「科学へのとびら」は、佐賀大学と佐賀県教育委員会の主催による高大連携活動の一環としての取組です。3年間の継続的なプログラムに参加して、ポートフォリオ等の成果物を作成することを通して、「科学」を発見・探究できる多面的な視点を育て、自らが知らなかった自身の適性や興味・関心を見つけていくことを目的としています。



今年度からは、本校では理数科1～3年の希望者が参加登録しています。

6月17日(日)に、今年度最初の「科学へのとびら」が佐賀大学で開催されました。

1年生は、講話「海の生物学研究の最先端を知ろう ～赤潮がウイルスに感染する!?!～」を受講して、科学の最前線に触れ、科学に対する関心を高めました。

2年生は、講話「科学の多様な研究分野を知る」を受講して、佐賀大学の先生や大学院生が行っている研究の例を学習し、自分が関心を持っている分野以外にも視野を広げる機会を得ました。

3年生は、講義「『科学』を使う人の影響力」を受講して、研究倫理について学習しました。講義「社会の要請とこれからの社会」では、社会・経済の変化に伴うこれから求められる人材像について学習しました。また、課題研究での研究活動や計7回の「科学へのとびら」で学習したことについて振り返り、自分自身を客観的にとらえる演習活動に取り組みました。修了式では、7回すべてに参加した3年生約60人に修了証が授与されました。本校を代表して、古島波音さんが修了証を受け取りました。

「科学へのとびら」を通して身につけた視点や考え方を今後の学びに生かしてほしいと思います。